

## カマイタチと黒坂

江戸時代の文化年間に橘 崑崙たちばなこんろんが書いた『北越奇談』ほくえつきだんの巻之二の「俗説十有七奇」に、「その三 鎌鼬かまいたち（一説では「構かまい太刀たち」）…伊夜日子から国上山へ越すところに黒坂という地があるが、そこで誤ってつまずいた者は必ず鎌鼬かまいたちに遭あう。…」（現代語訳『北越奇談』野島出版刊）という記述がある。

以前はよく「カマイタチにかけられた」という言葉を耳にした。

「カマイタチ」について、『広辞苑』には「物に触れても打ちつけてもいないのに、切傷のできる現象。昔は鼬いたちの仕業しわざと考え、この名がある。越後七不思議の一つに数え、信越地方に多い。鎌風かまかぜ。」とある。あたかも鋭意な鎌で切られたようにパクッと裂けた傷であるが、血も出ないし、痛みもほとんどないという。その原因がはっきりしないため、昔から怪獣の仕業だともいわれてきた。『広辞苑』に載っていることから、新潟県に限った現象ではないと思うが、雪の降る地域に多く、全国的にも越後が有名であるらしい。カマイタチは俳諧では冬の歳時記に入っている。

平成8年7月、テレビ朝日の報道番組「ニュース・ステーション」の天気予報の話題に「カマイタチ」が取り上げられ、弥彦村で取材が行われたことがあった。そのとき、案内役の駒形さとしさん（新潟県民俗学会会長）から「弥彦・国上の間の黒坂」の場所を聞かれた。いろいろな方にその場所をお尋ねしてみたが、場所を特定することはできなかった。この「黒坂」は弥彦村のどこを指すのか…、ご存知の方がおられたらぜひ知らせてほしい。取材の中で、麓で「カマイタチにかけられた」経験（傷跡も残っていた）がある方2人からお話を聞くことができたが、弥彦村全体となれば「かけられた」経験を持つ人はもっと出てくるのではないだろうか。

最近では「カマイタチ」という言葉もすっかり聞かれなくなった。